

## おたより

はやいもので2025年も終ろうとしています。先日のリズム発表会では、子どもたちに惜しみない拍手や手拍子、声援をありがとうございました。舞台裏で心温まる応援に涙してしまいました。子どもたちがアイデアを出し合い楽しみながら、時にはうまくいかなくて悔しい思いをしながら創り上げた発表会。子供たちの発想力はもちろんですが、一人一人が考えたり悩んだり、それぞれが壁を乗り越えてこれだけのものを作り出しています。そして、そこには職員全員の勇気づけが深く関わってきます。

よく書かせて頂いているのですが、子どもが直面する問題に親（職員）が、どういう気持ちで関わっていくか、最初のスタートで大きく変わっていきます。

\*あなたのことを信じているから結果がどうであれ頑張った事をお母さん（先生）はちゃんと分かっているよ。だから、見守ってるね。

なのか・・・

\*この子が心配だからちゃんとやれるようにわたしがサポートしてあげなきゃ この子が傷ついてしまう。手助けしてあげなきゃ、可哀想。

なのか・・・

今回の会場の皆さんは明らかに前者の選択をしてくださいました。頑張っているあなたを信じているよ。応援しているよ。と声や拍手で伝えて下さいました。有難い気持ちでいっぱいです。

私たちが取り組んでいる親業やアドラー心理学では、「勇気づけ」をしています。ご褒美や褒める事は必ずしも子どもをやる気にさせる事にはつながらないのですが、激励することも勇気づけにならないことがあります。私たちも気をつけてはいるのですが、上手くいかないこともよくあります。例えば、子どもが頑張ったけれど結果が思わしくなくて落胆している時、「もっと頑張って！できる、できる！」と激励しても、今までの努力が実らず残念に思っている子どもの気持ちにじっくりくるでしょうか？子どもは「分かってない」と感じたり「まだ やらなければならないの？」とあって、逆にやる気をなくすかもしれません。単に激励することは勇気づけにはならないのです。

子どもが自分に自信を持ち能力を伸ばし、自分が好きになり自尊心を持つようになるには、周りの人の勇気づけが必要となります。

それでは、どうやって？・・・

① 子どもが自分に自信を持つときは、自分が受け入れられたり、自分への信頼を示された時です。

ありのまま無条件で受け入れ信頼してみてください。

「〇〇ちゃんはどのように考えてるの？」「元気のいいすてきな絵だね」「それはきっとできると思うよ」などの言葉かけがあれば、していることに自信を持てるようになるのではないのでしょうか。

② 子どもが能力を伸ばす為には結果がどうあったかではなくて、どのように努力したのか、どれだけ進歩したのかを認めることも必要です。

「よく考えたんだね」「随分上達したと思うけど、自分でもそう思わない？」などの言葉かけがあれば

ばやる気がでますね。

- ③ 子どもが自分を好きになり自尊心を持つようになるには、子どものしたことがどんなに役立ったのか、建設的な行動だったのか伝えていくのも大切です。

「手伝ってくれてとても助かったよ」「ありがとう。おかげで早く片付いた～」「〇〇ちゃんのおかげでとても楽しかった」などの言葉かけがあれば、して良かったと感じるのではないのでしょうか。

勇気づけは、子どもがどのようなようであっても、あるがままを受け入れ、子どもの長所や出来たことに焦点を合わすことになります。それを親（保育士）が心から喜んで伝えてくれたら最高です。子どもが自分を大切にすれば、自分の能力を自分の為だけでなく、みんなのために使うことが大切だと学んでいきます。子どもの短所や欠点を取り上げて指摘しても、やる気は削がれてしまいます。また、失敗したときこそ勇気づけが必要です。人間は失敗するものであることを認め、それまでの子どもの努力を認めてあげたいものです。がっかりしている子には「がっかりしてるんだね」と共感してこれからどうしたらいいのか相談にのってください。人間は失敗するからこそすばらしいものを創れるそうです。

ただ、私たち保育士も毎回うまくいくことはありません！あ～へんな言葉掛けたな～とか 今のは、勇気づけではなかったな～とか 失敗ばかりです！今回、発表会後の保護者の方々の大きな拍手、手拍子、声援から、私たちこそ勇気づけをして頂きました。ありがとうございました。